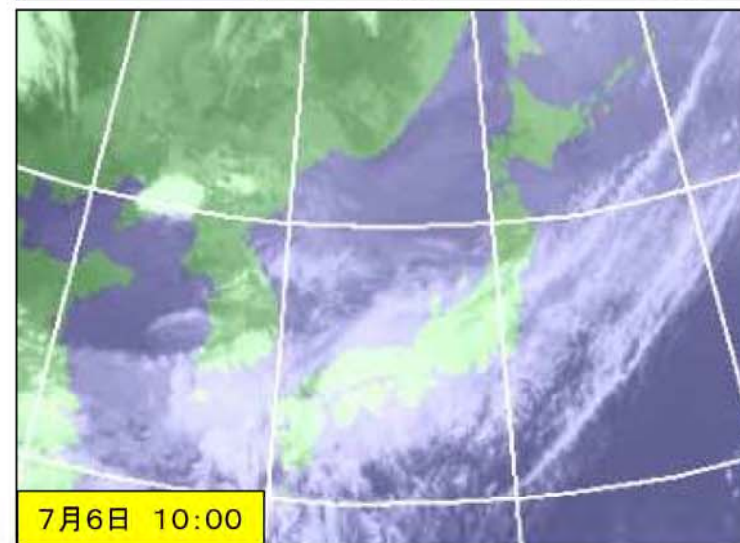
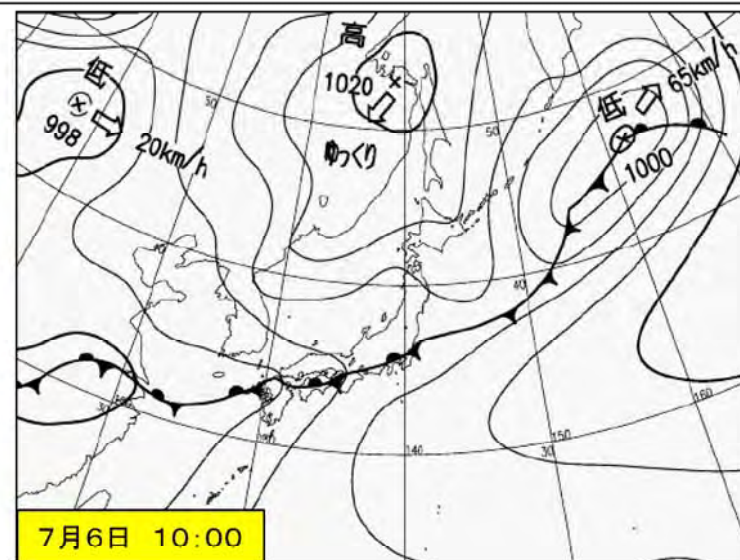
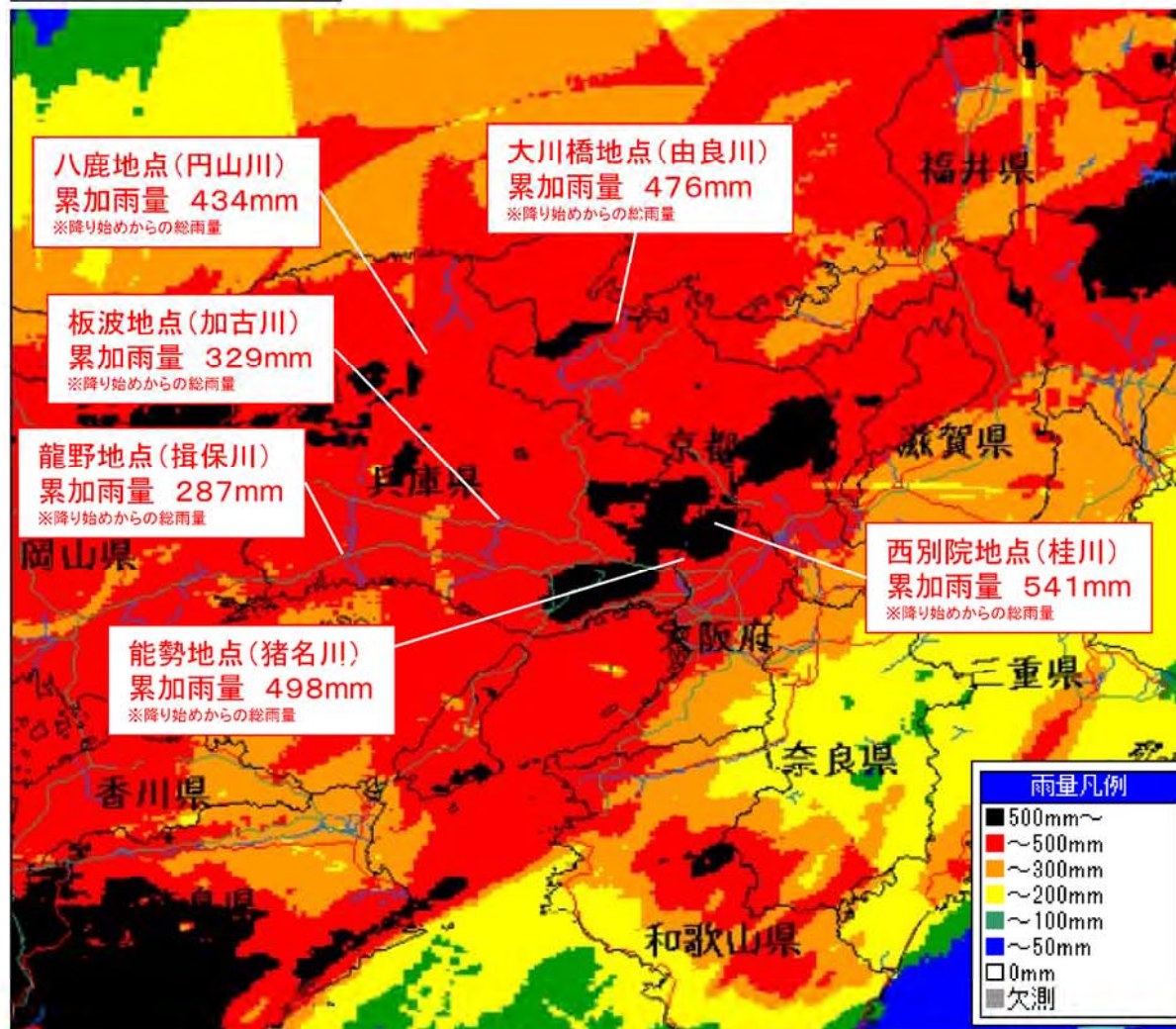


平成30年度の出水状況について

平成30年7月豪雨の概要

○4日昼から8日にかけて、東日本から西日本に停滞している梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発となり、近畿全域で猛烈な雨が断続的に降り、降り始めからの雨量は多いところで近畿中部で約540ミリ、近畿北部で約480ミリを超えることとなった。

累加レーダ雨量

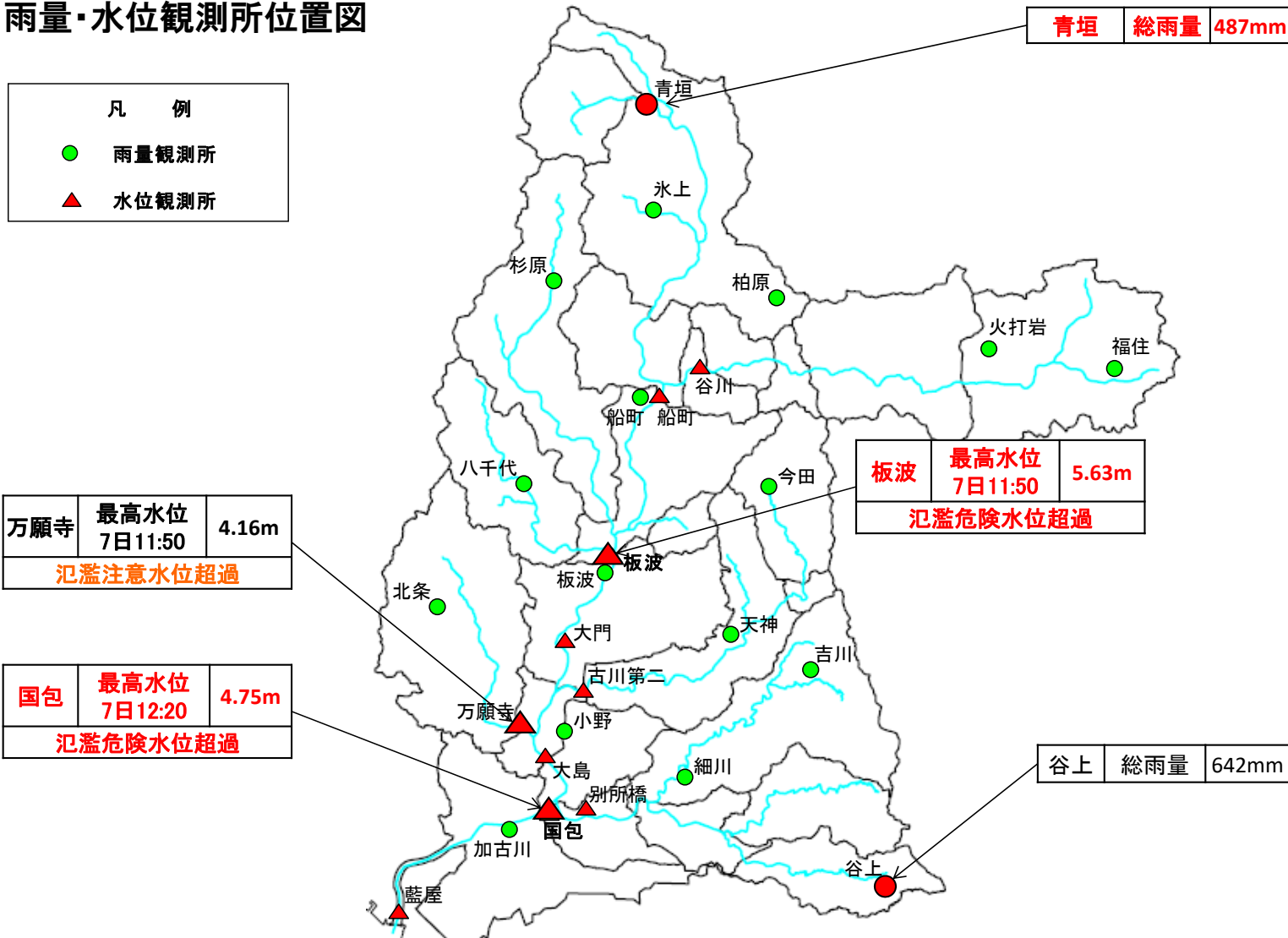


※数値等は速報値ですので、今後の精査等により変更する場合があります。

雨量・水位

○降り始めの7月5日午前～7日夜頃まで、多いところでは総雨量642mmを観測した。
西脇市には、7月7日2:47から18:10の間、大雨特別警報(土砂災害、浸水害)が発表された。
また、国包水位観測所、板波水位観測所で「氾濫危険水位」を超過した。

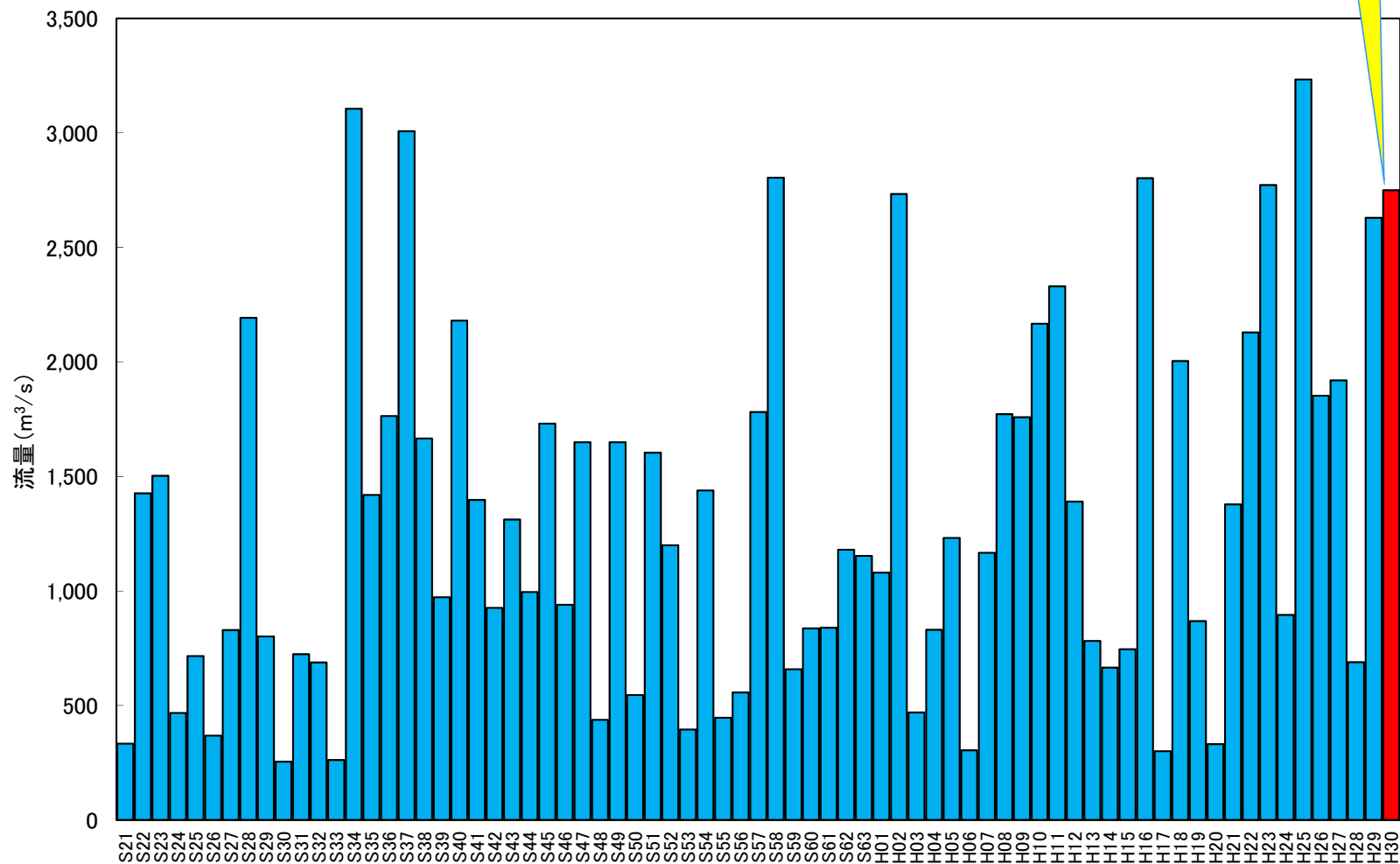
加古川流域 雨量・水位観測所位置図



平成30年度の出水概要

○平成30年度は、加古川において7月4日～8日にかけて発生した平成30年7月豪雨が最大流量を記録した。
板波地点流量は約2,700 m³/sの出水^(暫定値)であり、滝野地区において浸水被害が発生した。

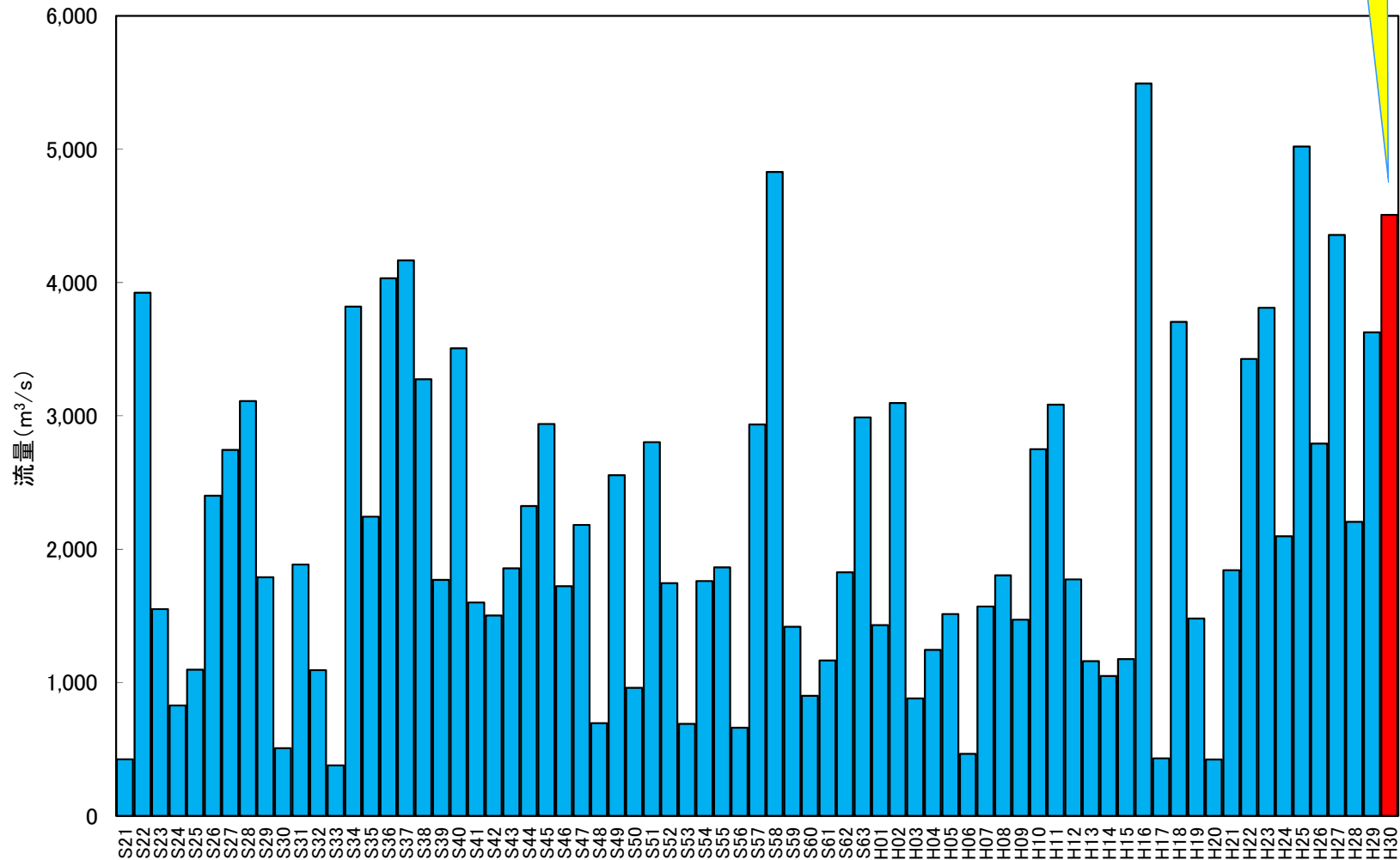
板波地点 年最大流量



平成30年度の出水概要

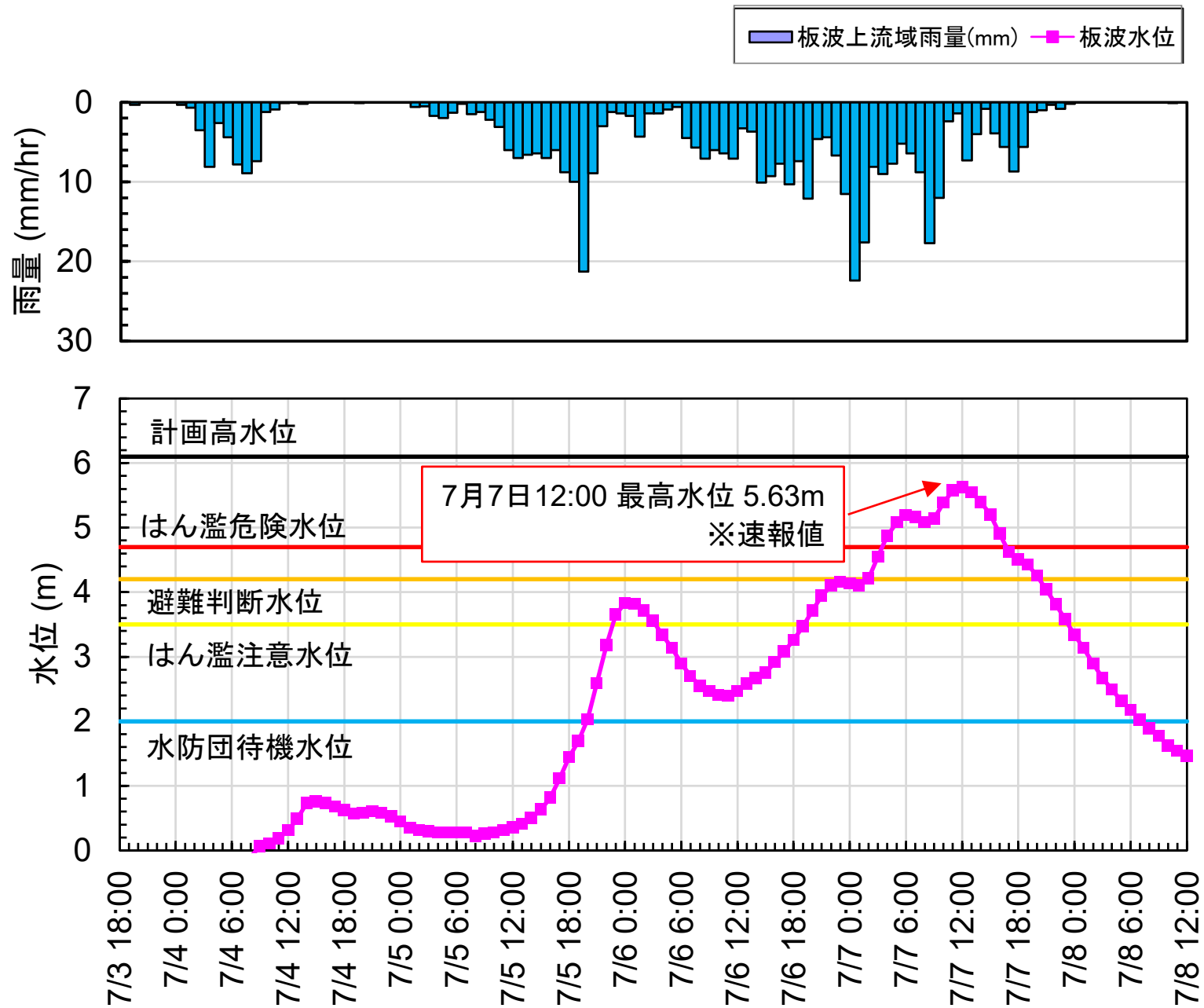
○平成30年度は、加古川において7月4日～8日にかけて発生した平成30年7月豪雨が最大流量を記録した。
 国包地点流量は約4,500 m³/sの出水_(暫定値)となった。

国包地点 年最大流量



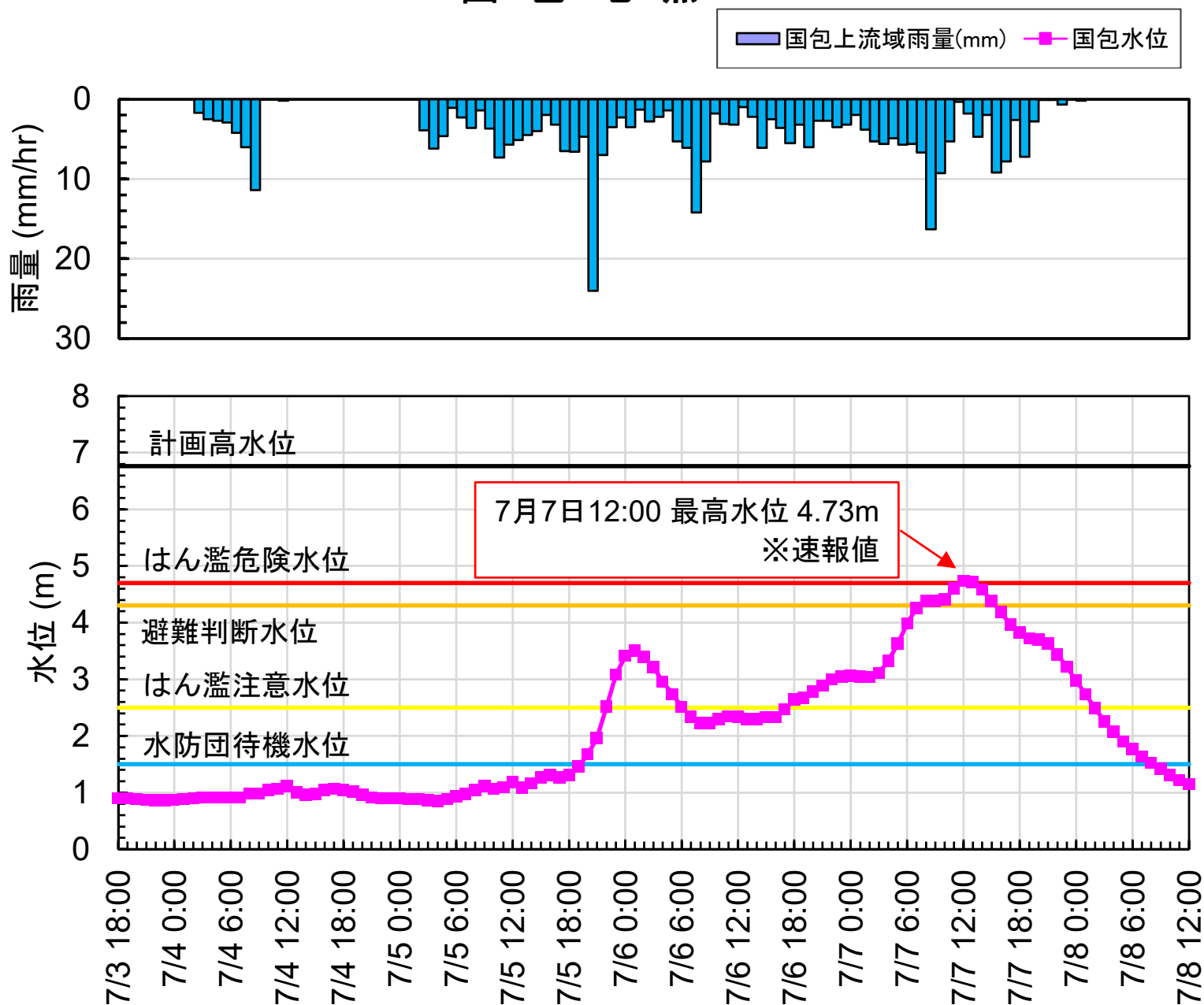
洪水の概要（板波地点）

板波地点



洪水の概要（国包地点）

国包地点

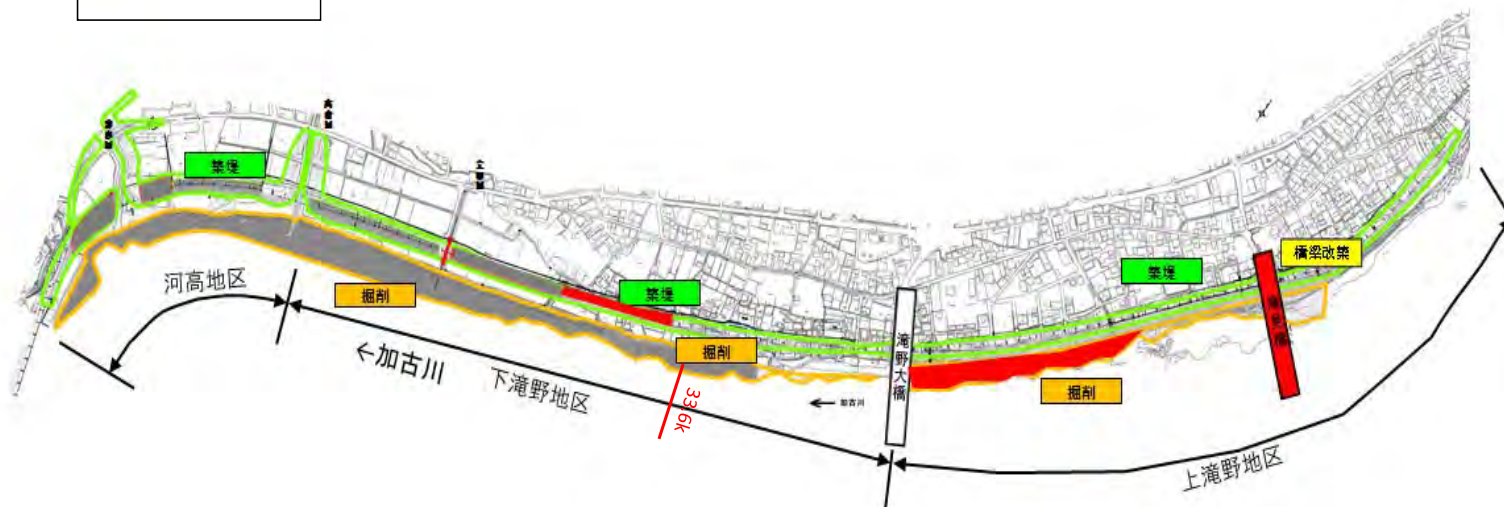
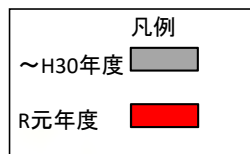


河川改修事業の効果（加東市滝野地区）

- 加古川では、平成16年台風23号洪水により甚大な被害が発生したため、加東市滝野地区において河道掘削（約8.4万m³）、築堤（約0.8km）を実施（平成31年3月時点）。今後、築堤をさらに実施予定。
- この事業の効果により、平成30年7月豪雨による洪水では、加古川の水位が約0.5m低下。
- 今後予定している築堤・河道掘削により、水位が上昇した際の安全度がさらに向上し、浸水被害を解消。



平成30年7月4日～7日 台風7号等洪水
（加古川32.6k付近：加東市河高地区）



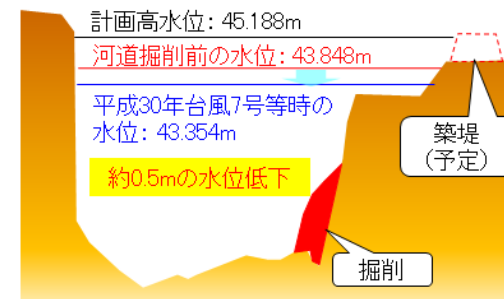
掘削事業 施工状況(加古川33.8k付近)



施工前



施工後



加古川33.6k付近

洪水の概要（加古川黒田庄町 大伏、前坂）

■ 平成30年7月豪雨（7月7日 午後4時20分頃）



河川改修事業の効果（加古川・野間川）

- 平成16年10月台風第23号の再度災害防止対策として、激甚災害対策特別緊急事業による河道改修等を実施。
- 平成30年7月豪雨では、西脇雨量観測所で平成16年10月出水時と同程度の雨量が観測されたが、野間川では1.8m水位低下させ、堤防越水による浸水被害を未然に防止。

位置図



事業効果

事業概要

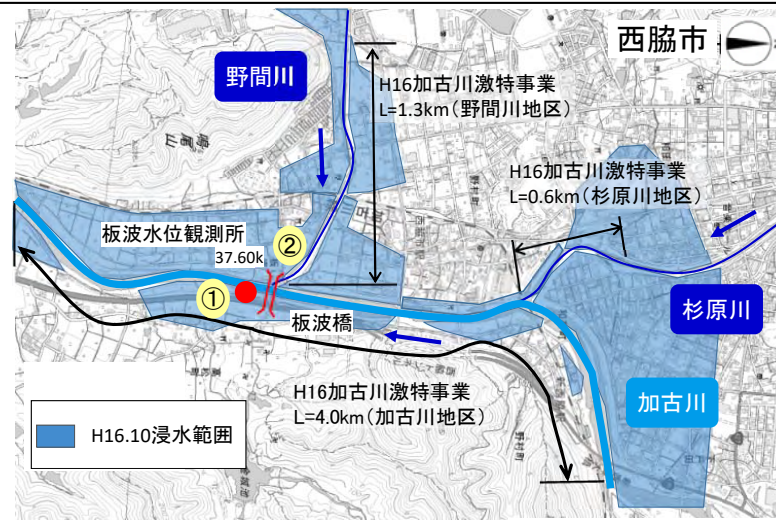
- H16加古川河川激甚災害対策特別緊急事業
- ・延長：5.9km（加古川、杉原川、野間川）
- ・内容：掘削、築堤、護岸、橋梁等
- ・期間：平成16年度～平成22年度

改修前後状況（西脇市板波）



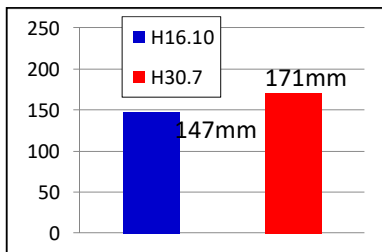
事業実施前

事業実施後

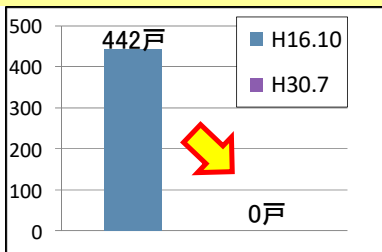


地図出典：国土地理院ウェブサイト

西脇雨量観測所（24時間雨量比較）



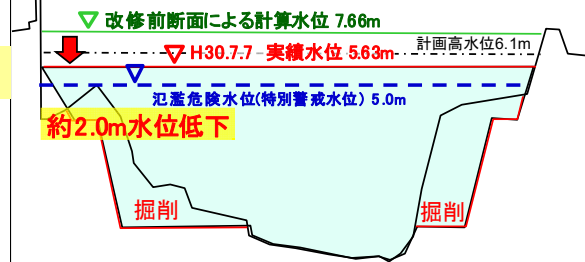
西脇市域での浸水戸数（外水氾濫）



① 整備効果【加古川（板波地区）】

整備後の状況：断面が約1.3倍に拡大

整備後：河道改修により、約2.0mの水位低減（整備前では堤防天端まで約0.6mと推定）



② 整備効果【野間川（加古川合流付近）】

整備後の状況：
断面が約1.2倍に拡大

整備後：河道改修により水位が1.8m低下し、
浸水被害を防止
（整備前では堤防を約0.2m超過と推定）



堆積土砂撤去箇所

加古川中流部では平成30年7月豪雨後に、5箇所では堆積土砂(約2.9万m³)を撤去しました。



掘削箇所①
(大伏地先)

着手前



撤去後



撤去範囲

掘削箇所②
(前坂地先)

着手前



撤去後



撤去範囲